

# 特集

## どんとこい!!!

# 慢性疾患増悪

救急医にとっての理想は、軽症から重症まで、内因性か外因性かを問わず、どのような救急患者が来ても「どん！」と構えて対応できることでしょうか。しかし、当然ながら救急医が対応し得る疾患は急性に発症・受傷したものに限られず、慢性的な疾患の増悪も含まれます。そのようなありとあらゆる領域の最新の知見・エビデンスを常にチェックし、すべての現場ですぐに反映することは、あまり現実的ではありません。できるかぎり細やかな知識のアップデートと研鑽が必須であることは大前提として、実際には過去の経験や不十分な知識をもとに対応せざるを得ない場面があることは否定できません。とくに、救急で遭遇する頻度が低く、かつ幅広い内因性疾患が対象となり得る「慢性疾患増悪」については、各専門領域での最先端に救急医が追いつけていないことが比較的多いかもしれません。

そこで今号では、その慢性疾患増悪をテーマに、救急医の「この慢性疾患の増悪への対応は、今もこれでよいのか?」「この領域の最新・最近のトピックスは?」「専門科医が救急医に求めるのはどんなこと?」といった不安や疑問を解消するための特集を企画いたしました。本誌では過去にも慢性疾患増悪を取り上げた特集がありましたが、直近でも10年以上が経過しています。今回、救急医が自信をもって慢性疾患増悪例の初期対応にあたるよう、各分野のエキスパートの先生方に、最新の知見に基づいて「救急医が知っておくべきこと」「救急医に知っておいてほしいこと」を解説いただきましたので、ぜひ知識をアップデートしてください。

本特集で学んだことが一助となり、救急医が慢性疾患増悪の患者も「どんとこい!!!」と受け入れて、適切な初期対応を行えるようになること、そして必要であれば過不足なく美しく専門他科などに引き継げるようになることを、期待しています。